

# FAX飛躍

## JR東労組東京地本青年部

# そもそも春闘ってなんだろう？

春闘号外その1でお伝えしたように春のたたかいがいよいよ始まります。春のたたかいは賃金引き上げのたたかいがメインとなります。賃金は会社が引き上げてくれるものではありません。賃金を上げることは人件費が増えること直結し、会社経営・資本の論理からすれば、同じ人件費または人件費を引き下げて利益を追求しようとするのであり当然の考えです。だからこそ、賃金引き上げは労働組合が会社に申し入れを行い、会社との団体交渉で決定されます。

会社の決算が出る3月に労働組合が賃金引き上げ、主に基本給の上積みであるベースアップ（ベア）を求めることが賃金引き上げのたたかいのメインとなります。春闘とは春季生活改善改善闘争の略称です。春闘は、一企業と一労組では十分にたたかう力がないので、一緒の時期に一緒にたたかい、相乗効果を高めること（統一闘争）が本来の姿です。一番景気の良い企業の産別に要求額を設定（統一要求）し、各労働組合が各会社と集中決戦を迫るという方式（高原闘争）が1955年から始まり、統一要求・統一闘争の春闘形態をとってきましたが、2014年の春闘以降、安倍政権による賃上げ要請、いわゆる官製春闘が始まり労使間の交渉で賃金引き上げを決定する春闘のかたちは破壊されつつあります。

「政権からの要請だったとしても賃金が上がればいいのでは？」といった声もあるかもしれませんが、しかし、政権からの要請で賃金が上がることがあれば、賃金を下げるような要請があれば、それに経営側が応えるような事態も想定されます。賃金は労使間の議論で決定するのが大前提です！

## では今年の19春闘の情勢は？

12/27 毎日新聞

### 首相が賃上げ要請は踏み込まず

安倍晋三首相は26日、東京都内で開かれた経団連の会合であいさつし、「景気の回復基調をより確かなものとする」と述べ、2019年春闘での賃上げを経済界に要請した。安倍首相による賃上げ要請は6年連続となる。（4面に関連記事）

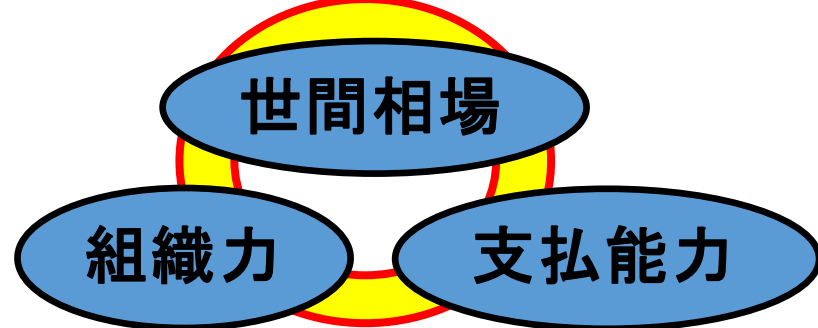
18年春闘では3%の数値目標を示した。だが経済界から過度な政治介入との批判もあり、今回は具体的な水準に踏み込まなかったとみられ、「官製春闘」の転換となる可能性もある。会合は経団連の中西宏明会長ら約350人が参加。

安倍首相は来年10月の消費増税について「消費増税を全額返すレベルの消費税対策を準備した」と説明し賃上げを要請。増税に伴う消費の落ち込みを回避したいとの狙いがある。

経団連は来年1月に公表予定の19年春闘指針案で、賃上げの具体的な数値目標を示さない方針を固めている。「官製春闘」と呼ばれることへの違和感も盛り込み、各社労使が自律的に交渉すべきだとの考えを明確に打ち出す方向だ。記者団の取材に応じた中西会長は「（指針案は）変わらない」と強調した。【横山三加子】

6年連続の  
首相による賃上げ要請！

## 春闘をかちとる三要素



賃上げ要請は春闘をかちとる三要素には含まれない！

賃金引き上げは社友会では求める権利は無い！  
東労組の組織力で賃金引き上げを勝ち取ろう！！